

令和5年度事業概況報告書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

令和5年度の日本の経済は物価の上昇が継続し、企業も価格改定を進めた。新型コロナウイルス感染症が5類となり、コロナ前の社会活動にもどり、インバウンドの増加でサービス業界も回復したが、産業界全般で人手不足で需要に対応出来ない状況が顕著化した。また、為替の円安など内需型ビジネスにとり大変厳しい状況が継続したが、社会経済活動は徐々に回復してきた。

3月度の内閣府月例経済報告においては「景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している」と要約されており、先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があるとされている。

我が国政府は中国による水産物の輸入規制強化の中でも、農産物の輸出促進を進め、1兆4,547億円対前年比2.9%増となった。

一方、国内の酪農・乳業界はエネルギー価格、飼料価格の高騰などで生乳価格の改定を進めたが酪農家の経営は厳しい状況が継続し離農が増加した。飲用乳の販売は低迷したが、生乳生産の減少から加工用生乳処理は減少し、外食業界の回復などでバター在庫は5年ぶりの低水準まで減少した。脱脂粉乳在庫は業界挙げて在庫削減に取り組み5万トンに減少した。

乳業界は昨年も生乳、資材、流通コストの増加から、乳製品、牛乳価格の再値上げを実施した。家庭市場の牛乳、乳製品販売は食品全般の値上げで生活防衛意識の高まりから、買い控えなどで消費が低迷したが、値上げで決算は大幅増益となった。

そのような外的環境の変化の中で当協会においては、令和4年度から令和6年度までの目標達成に向け、ロードマップの4つの柱の活動を推進した。特にネットワーキングの充実では一般社団法人日本乳業協会及び一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会と連名で令和4年8月に厚生労働省加藤大臣に提出した「乳等の容器包装・原材料規格の改正」要望を踏まえた厚生労働省食品基準審査課及び国立医薬品食品衛生研究所の「用途別規格改正案」のワーキンググループに技術統括委員長も参画して、ポジティブリスト制度に則した告示370号を含めた大幅な規制緩和の改正案が策定され、厚生労働省薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会器具・容器包装部会で「器具・容器包装の規格基準改正」を了承した。

新型コロナウイルス感染症の5類で定時社員総会は通常開催し、事業企画小委員会、技術統括委員会、乳機器部会はオンライン会議との併用で実施した。

会員セミナーは秋季・会員セミナーでは株式会社パッケージング・ストラテジー・ジャパン森社長から「パッケージを取り巻く世界の動向」と一般社団法人全国清涼飲料連

合会那須専務理事から「清涼飲料業界の未来に向けて」の講演を頂いた。春季・会員セミナーは雪印メグミルク株式会社生産技術部北部長から「最新乳製品工場」として「磯分内バター工場」また、一般財団法人化学研究評価機構企画調整室梶原室長から「ポジティブリスト制度の動向と食品接種材料安全センターの活動」のご講演を頂き、会員企業へ乳業界、清涼飲料業界、容器規制の最新の情報共有の充実を図った。

また、ロードマップの「社員教育への貢献」として若手・中堅社員研修会の充実を図り、技術統括委員会から「改正食品衛生法と協会自主基準」と乳機器部会から「牛乳製造設備の装置・機器、容器・充填機、衛生管理・微生物」の勉強会と情報交換の機会として懇話会を実施、また「雪印メグミルク株式会社海老名工場」「サントリープロダクト神奈川綾瀬工場」の見学会も実施した。

本年度の主な活動内容は以下の通りです。

1. 令和5年5月16日第12回定時社員総会をAP市ヶ谷で開催し、厚生労働省食品基準審査課今西課長補佐から「ポジティブリスト制度」の特別講演を頂いた。
2. 令和5年11月14日会員セミナー「パッケージを取り巻く世界の動向」パッケージング・ストラテジー・ジャパン森社長、「清涼飲料業界の未来に向けて」一般社団法人全国清涼飲料連合会那須専務理事の講演を開催した。
3. 令和6年3月18日会員セミナー「最新乳製品工場：磯分内バター工場」雪印メグミルク株式会社生産技術部北部長と「ポジティブリスト制度の動向と食品接触材料安全センターの活動」一般財団法人化学研究評価機構梶原企画調整室長の講演を開催した。
4. 令和5年10月30日若手・中堅社員研修会を出版クラブで技術統括委員会及び乳機器部会講師で実施した。
5. 令和5年11月15日社員研修会で「雪印メグミルク株式会社海老名工場」「サントリープロダクト神奈川綾瀬工場」工場見学会を実施した。
6. 事業企画小委員会は協会活動の活性化及び協会価値の向上に向け、会員セミナー、社員研修会を立案、実施した。
7. 技術統括委員会は、「乳等の容器包装の規格基準改正」につき、一般社団法人日本乳業協会及び一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会と連携して「用途別規格改正」に関する国立医薬品食品衛生研究所のワーキンググループに委員として参画した。
8. 乳機器部会は、牛乳等常温保存可能品の乳等省令改正に関連して「牛乳等常温保存可能品製造設備、装置の自主基準」策定をワーキンググループで協議した。
また、一般社団法人日本乳業協会から「小規模乳業メーカーの品質管理向上」のため、装置、機器メンテナンスのビデオ作成を検討開始した。
「異物混入対策」シートのアップデートを実施した。
9. 厚生労働省食品基準審査課には情報提供を行うとともに、当協会に関連する規則情報収集に努め必要な情報を協会会員へタイムリーに提供を行った。
10. 当協会に関連する諸団体、一般社団法人日本乳業協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会、一般社団法人Jミルク、食品接触材料センターと情報交換して会員へ情報提供した。

このように当協会は、厚生労働省はじめ各方面のご協力と会員各位の尽力により本年度もその歩みを進めることができました。今後も国民の健康と食の安全に資する取組みを主軸に活動を進めて参ります。

以上

附属明細書：事業活動の詳細

1. 第12回定時社員総会

令和5年5月16日 AP市ヶ谷6階Cルーム

正会員35社議決権行使

- (1) 採択事項： ①令和5年度事業概要報告及び決算書の件
②理事・監事選任の件
- (2) 報告事項： ③令和5年度事業計画書及び予算の件
④事業企画小委員会活動報告の件
⑤技術統括委員会活動報告の件

2. 主な活動

(1) 技術統括委員会

当協会の重要事項である器具及び容器包装の規格の更なる規制緩和のため、「乳等の容器包装・原材料規格の改正」に関して、一般社団法人日本乳業協会、一般社団法人全国発酵乳乳酸菌飲料協会と連携して要望を反映すべく、厚生労働省食品から国立医薬品食品衛生研究所へ委嘱の「用途別規格改正」のワーキンググループに委員として参画した。

(2) 乳機器部会

「異物混入対策」リストの更新し、ホームページに掲載した。

若手・中堅社員研修会で「牛乳容器・紙パック充填機・機器、装置・衛生管理・微生物の基礎知識」の講師を務めた。

一般社団法人日本乳業協会と「乳等常温保存可能品製造設備の自主基準案」に関して協議した。また、中小乳業メーカーの品質管理対策として、「装置、機器メンテナンス」のビデオ収録につき、協議を開始した。

(3) 事業企画小委員会

当協会の令和4年度から令和6年度までの3カ年の目標達成に向け、ロードマップに基づいて令和5年度の活動を推進した。

協会価値向上のため、関連団体、乳業メーカー及び世界の容器規制の会員セミナーを企画、実施した。また「社員教育へ貢献」の活動として若手・中堅社員研修会の充実を図り、企画、実施した。

3. 官公庁・関係団体などとの取り組み

- (1) 厚生労働省…「ポジティブリスト制度」に関する意見交換や関連情報の提供を実施した。「乳等の容器包装及び原材料規格の改正要望」に関して、厚生労働省の業務委託を受けた国立医薬品食品衛生研究所の「用途別規格改正」ワーキンググループにも委員として意見交換を実施した。

関係団体等…一般社団法人日本乳業協会及び一般社団法人日本乳業協会と「乳等の容器包装等の規格基準の改正要望」に基づき、「用途別規格改正案」につき、意見交換、情報共有した。一般社団法人日本乳業協会と「乳等常温保存可能品製造設備に関する自主基準案」につき、協議した。

一般財団法人化学研究評価機構から「ポジティブリスト制度の動向と食品接触材料安全センター活動」の講演を頂いた。

また全国飲用牛乳公正取引協議会への協力(専門部会参加)し関係団体とのネットワーキングの維持、活性化に努めた。

4. 広報事業の取り組み

会員に対する情報提供と関連団体を含めた普及啓発事業の実施

(1) 会員セミナーの実施

秋季・会員セミナー「パッケージの世界の動向」「清涼飲料業界の未来」

春季・会員セミナー「最新乳製品工場」「ポジティブリスト制度の動向」

(2) 協会だより

行政の容器規制情報や会員セミナー講演情報(抄録)を提供した。

5. 会員数

令和6年3月末現在	正会員	35社
	賛助会員	30及び3団体
	個人賛助会員	4名
	計	65社3団体及び4個人

6. 会議等の開催状況

(1) 通常総会	令和5年5月16日	1回
(2) 理事会		3回
(3) 事業企画小委員会		10回
(4) 技術統括委員会		5回
(5) 乳機器部会		3回
(6) 会員向けセミナー	令和5年11月、令和6年3月	2回

以上